

現金と投資の関係性

現金も投資の一種

円やドルなどの通貨も投資ポートフォリオの一部です。

現金の価値変動

1,000円札の額面は変わらなくても、購買力（実質価値）は時間とともに変動します。

金(ゴールド)と現金の関係

金の価値は比較的安定しており、金の価格上昇は多くの場合、現金の価値低下を反映しています。

株式の長期的上昇傾向

短期では変動があっても、株式市場は長期的に見ると右肩上がりの傾向があります。

長期的な資産価値の推移比較



ポイント

- 現金保有は「安全資産」と言われるが、インフレによって購買力は低下する
- 株式は短期的な変動があっても、長期投資では最も高いリターンを期待できる
- 資産運用は単一の資産クラスに集中せず、適切な分散が重要

日本人と預金の関係

預金好きの理由

過去の日本：高金利政策により預金が有利だった

現在の日本：金利は0.001%程度で、実質的な資産増加はほぼ期待できない

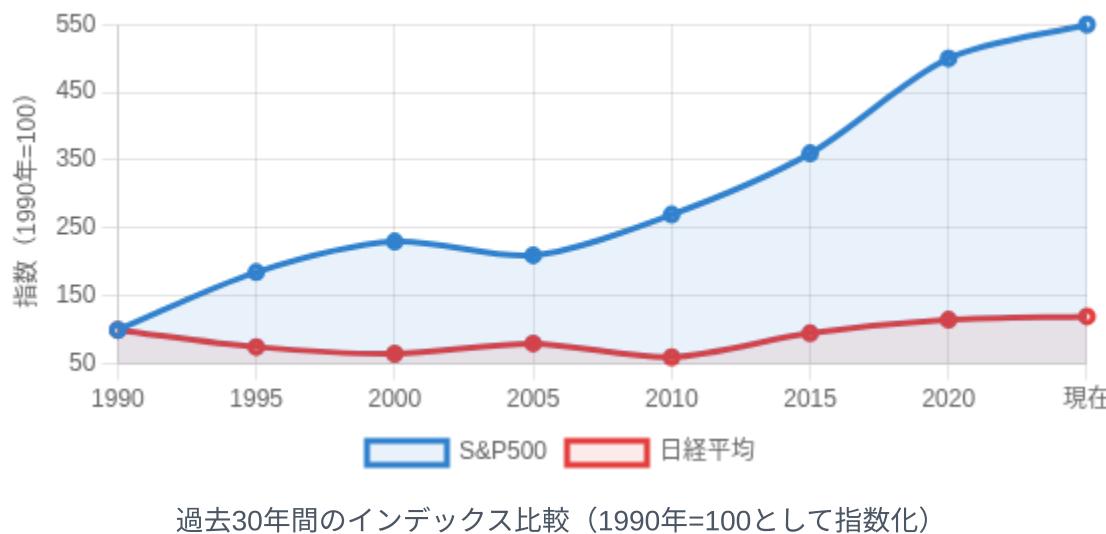
預金の本質



「預ける」ではなく「お金を貸している」

株式の中でも米国株がおすすめ

日経平均 vs S&P500 パフォーマンス比較



過去30年間のインデックス比較（1990年=100として指数化）

日本とアメリカの人口推移比較



人口増加
経済活動の活性化

イノベーション
新たなアイデア創出

投資余力
ビジネス成長の促進



金融の中心地：ニューヨーク

世界最大の金融市場が集中し、投資家の信頼と高い流動性を確保



基軸通貨：米ドル

国際的に最も強い通貨で、安定した価値を維持する基盤



高い企業成長率

GAFAMなど革新的企業による高い成長性と収益力



地政学的優位性

海に囲まれた地理的防御、豊富な天然資源、広大な国土

① 株式指数の基本



日経平均

日本の代表的な225社の平均株価



S&P500

米国の代表的な500社の平均株価



「アメリカ市場は世界最大の単一市場であり、イノベーションと資本の力を最も効率的に活用している」

- 投資家の共通認識

米国株の中でも投資信託がおすすめ

個別株

- 特定の1企業の株式（例：Apple、ソフトバンク）
- リアルタイム取引可能
- 大きな上昇益の可能性
- 値動きが激しい
- 価値が0になるリスクあり
- 100株単位での購入が必要なケースも

上級者向け

投資信託

初心者向け

- 複数企業へ分散投資（例：S&P500）
- 100円から1円単位で購入可能
- 分配金の自動再投資が可能
- 値動きが個別株より緩やか
- 価値が0になることはほぼない
- 取引は2営業日後

初心者におすすめ

ETF

中級者向け

- 取引所で売買される投資信託
- 当日に取引可能
- 信託手数料が若干安い
- ドルでの購入が可能
- 分配金の自動再投資は不可
- つみたてNISAでの購入が困難

投資信託がおすすめな理由

- 少額から投資可能（100円～）
- 自動分散投資による安定性
- 分配金の自動再投資で複利効果
- つみたてNISA対応商品が多い
- プロによる運用で銘柄選定不要

投資信託の超長期実績

S&P500

過去200年の運用実績

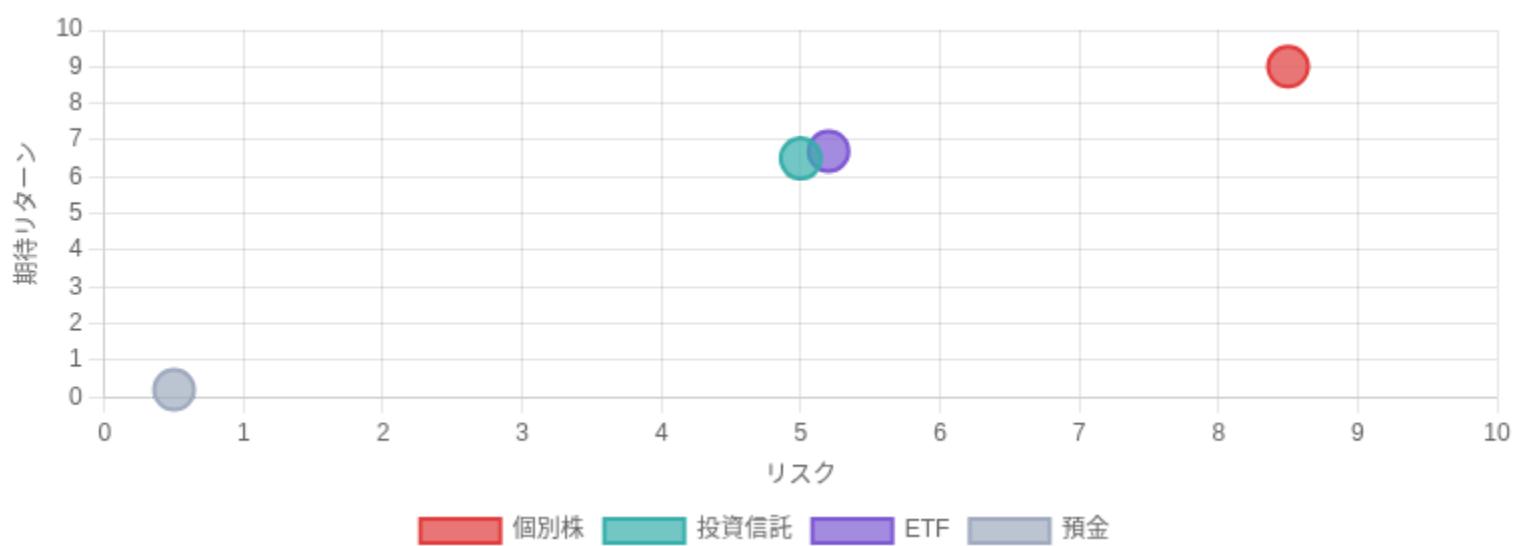
10年以上の運用で **94.2%** の確率でプラスリターン

20年以上の運用で **100%** の確率でプラスリターン

i 初心者へのアドバイス

まずは投資信託で長期的な資産形成を始め、投資の経験を積むことがおすすめです。

「時間をかけて育てる投資こそが、最も確実な資産形成の道です」



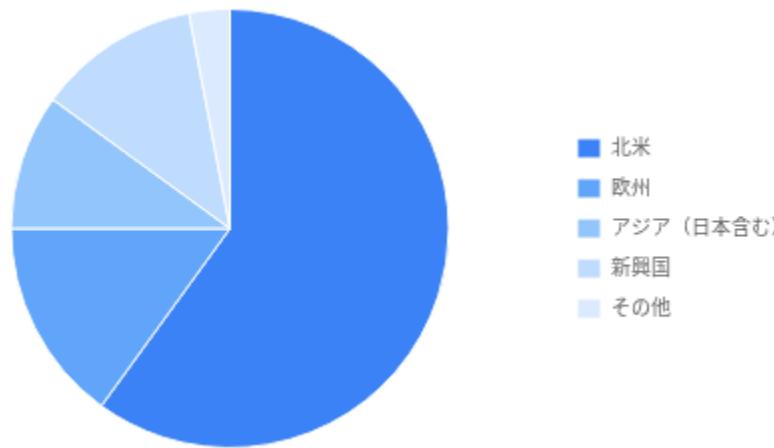
投資信託の中でもおすすめの商品

eMAXISSLim全世界株式(ACWI)

信託報酬: 0.1144%

- ✓ 全世界約50カ国、3,000社以上に分散投資
- ✓ 先進国・新興国市場を網羅
- ✓ 地域リスクを最小化
- ✓ 時価総額加重平均方式で組入比率決定

地域別構成比



主要組入企業

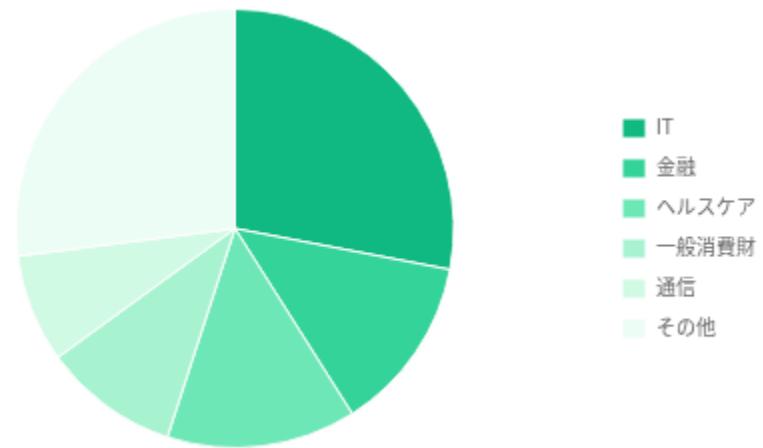
Apple Microsoft Amazon NVIDIA Google

eMAXISSLim米国株式(S&P500)

信託報酬: 0.0968%

- ✓ 米国の代表的な500社に集中投資
- ✓ 時価総額加重平均方式で組入比率決定
- ✓ 世界最大の経済大国への集中投資
- ✓ イノベーション企業が多数含まれる

セクター別構成比



主要組入企業

Apple Microsoft Amazon NVIDIA Google

選び方のポイント

全世界株式

地域分散重視の安定志向なら

米国株式

成長性重視のリターン志向なら

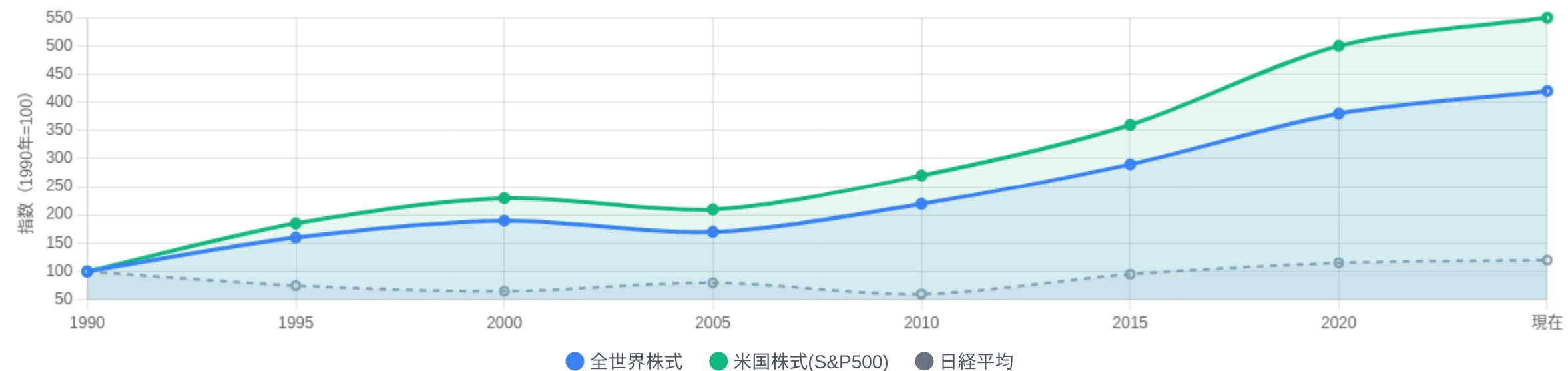
併用も有効

両方に分散して投資するのも戦略的

長期的な視点が重要

10年以上の運用を前提に

過去30年のパフォーマンス比較



※過去のパフォーマンスは将来の成果を保証するものではありません

投資の基本的なこと

投資と税金

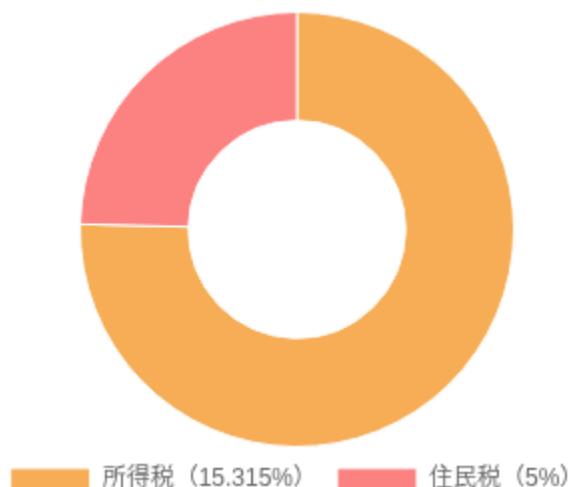
投資の利益には税金がかかる **20.315%**

株式・投資信託・ETFなどの売却益や分配金に課税

【計算例】

- ・投資額: 100万円
- ・売却額: 120万円
- ・利益: 20万円
- ・税金: 約4万円 ($20\text{万円} \times 20.315\%$)
- ・税引後利益: 約16万円

税金の内訳



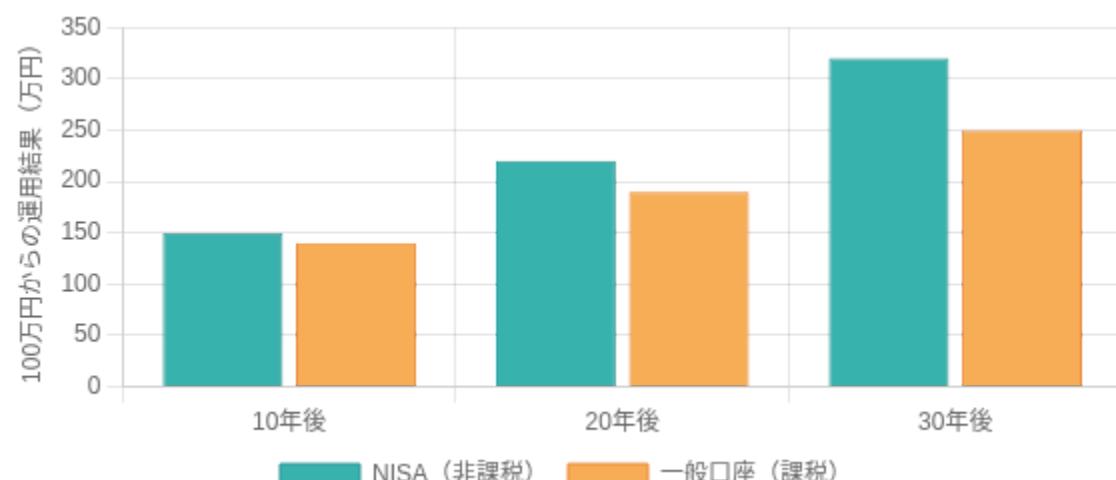
NISA制度について

NISAなら投資の利益が **非課税**

NISA（少額投資非課税制度）は、一定の投資枠内で得た利益が非課税になる制度

NISA利用のメリット

- ✓ 長期投資ほど非課税効果が大きくなる
- ✓ 複利効果を最大限に活かせる
- ✓ 投資のハードルが下がる
- ✓ 一般口座と比較して手続きが簡単



2024年からの新NISA制度

新NISA制度のポイント

- ✓ 一般NISAとつみたてNISAが統合
- ✓ 非課税枠が大幅に拡大
- ✓ 投資可能期間が恒久化
- ✓ 生涯非課税枠は最大1,800万円

枠の種類	年間投資枠	投資可能商品	保有期間
成長投資枠	240万円/年	株式、投資信託、ETFなど	無期限
つみたて投資枠	120万円/年	長期・積立・分散投資に適した投資信託	



NISA対象商品を購入するなら、必ず非課税制度を活用しましょう！

購入までの流れ①

1

証券口座を開設する

ネット証券がおすすめ

- ✓ 手数料が安い（店頭証券の1/10程度）
- ✓ 取扱銘柄が豊富
- ✓ スマホ1つでどこでも取引可能
- ✓ サポートやツールが充実

おすすめネット証券



SBI証券

業界最大手・手数料最安値・ポイント還元率高め



楽天証券

操作性良好・画面が見やすい・楽天経済圏との連携

口座開設のポイント

- ・NISA口座と特定口座（源泉徴収あり）の2つを開設
- ・口座開設はポイントサイト経由がお得（ハピタス等）
- ・オンラインで10分程度で申込完了、審査後に郵送物

2

銀行口座を開設する

ネット銀行がおすすめ

- ✓ 証券口座との連携が便利（自動入金）
- ✓ 入出金・振込手数料の無料回数あり
- ✓ 金利が高い（普通銀行の10～20倍）
- ✓ 送金スピードが速い

証券会社との連携

証券会社の提携ネット銀行なら、銀行への入金だけで証券口座への資金移動が自動で行えます。

SBI証券

→ 住信SBIネット銀行

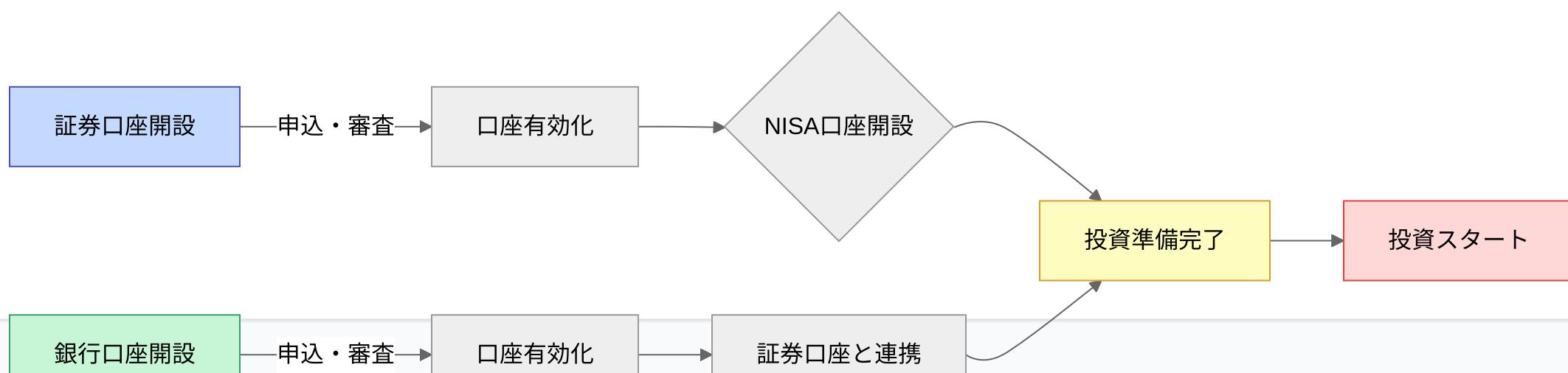
楽天証券

→ 楽天銀行

ネット銀行と普通銀行の比較

	ネット銀行	普通銀行
金利	0.01～0.2%	0.001%程度
振込手数料	月数回無料	都度発生
ATM手数料	月数回無料	基本有料

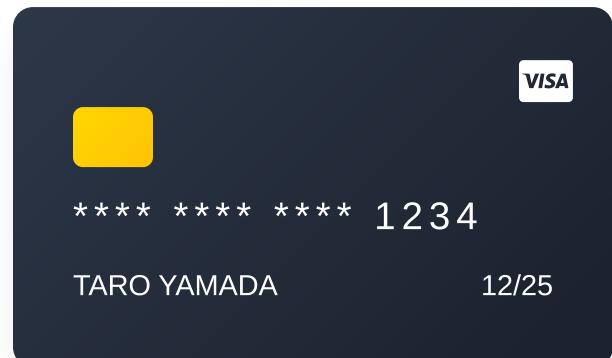
投資開始までの流れ



購入までの流れ②

3

クレジットカードで決済する



- ✓ ポイント還元で投資効率アップ (0.5%~2%)
- ✓ 引落日までの期間を有効活用できる
- ✓ 明細で投資履歴を確認しやすい
- ✓ 獲得ポイントも投資に回せる

● ポイント還元率計算例

- ・毎月5万円を積立投資（年間60万円）
- ・カード還元率1%の場合 → 年間6,000円相当のポイント
- ・実質的な投資効率が1%向上
- ・長期投資なら複利効果でさらに効果的

証券会社別対応カード

SBI証券

対応カード:

VISA 三井住友カード

(ナンバーレス・VISAのみ)

- ・Vポイント還元 (0.5%~1.0%)
- ・ポイントはSBI証券でも使用可能
- ・年会費無料プランあり

楽天証券

対応カード:

VISA 楽天カード

(通常・プレミアムどちらも可)

- ・楽天ポイント還元 (1.0%~2.0%)
- ・楽天経済圏との連携で還元率アップ
- ・年会費無料

● 他のカードは使用できません

さらにお得に作る方法

ポイントサイト経由がお得

1 ポイントサイト（ハピタス等）に登録

2 サイト内でカード発行案件を探す

3 経由してカード申込サイトに移動

4 通常のカード発行手続きを行う

5 発行完了で数千ポイントが還元

★ 獲得ポイントの活用法

- 証券口座に移動して投資に回す
- ポイント投資サービスを利用する
- 現金や電子マネーに交換する

